

# ふじみサラダボール子育て情報

「知的発達」

令和4年10月26日号

板橋富士見幼稚園



## 夜泣きは知恵の蓄え

赤ちゃんを寝かせようとするとき、抱っこしながらスイングすると、すやすやと眠りにつきます。ところが布団にそっと下ろした途端に、いきなり泣き出してしまふ、といった経験は誰もががあるかと思ひます。ずっと抱いているわけにもいかず、寝かしつけるのに苦労した記憶はありませんか。この大変さは、当事者しか分かりません。どうしてこんなに泣くのかしら…と悩み続けて、数ヶ月経つとやっと素直に寝ついてくれる日がやってきたことを思い出しませんか。赤ちゃんは、自分が寝ているときも、自分を守ってくれる人かどうかを試しているのかもしれない。その後はぐっすり寝るようになり、親も子もひと安心します。

1歳後半から2歳後半にかけて、子どもは安心して自己性（自分らしさ）を成長させていきます。徐々に自分の気持ちをしっかりと出し始め、してほしい事やしたいことを主張するようになります。この頃から第2の親のイライラが始まります。自分の思いが通らないときは、大勢の前で大声で泣いたり、モノを投げたり、時にはだまり込み下を向いたままじっと動かなくなったりと、様々なアクションを親にぶつけてくることもあります。手を焼きますね。でも、心配はいりません。どの子ども皆同じです。このような行為は、子どもが成長する過程で、誰もが経験する事です。知恵が育ちはじめ、小さな社会である家族から、児童館や幼稚園にデビューしていく準備が出来てきた証拠です。たくさんの知識を蓄えはじめたのです。



その強い葛藤が「夜泣き」という姿で現れることがあります。夜泣きは、起きているときの経験を知識とし学習しようとする証拠でもあります。

夜泣きが頻繁に起こるときは、抱き上げて、少し目を覚まさせ、水を与えてあげてください。そのとき穏やかな声で安心させ、しっかりと抱いてあげることが大切です。大変ですが、成長の過程ととらえ、ゆったりと見守ってあげましょう。

【写真：園庭のミカンが大きく育ってきました】